

課題名	79 電照ギクの無摘心栽培技術の確立	分類	①
	2) キクの12~1月出し栽培における夜温管理法		
試験研究年次	63~1年 (完了)		
I 目的			
電照ギクの12~1月出し無摘心栽培における消灯前後の栽培夜温が生育開花に及ぼす影響について検討し、栽培技術の改善を図る。			
II 試験方法			
1 供試品種 秀芳の力			
2 試験区の構成			
試験 I 12月出しの栽培夜温 (63年)		試験 II 1月出しの栽培夜温 (1年)	
(1) 定植後の栽培夜温 無加温		(1) 定植後の栽培夜温 無加温	
(2) 消灯後の栽培夜温 無処理、15℃、17℃		(2) 消灯前1週間 無処理、15℃、17℃	
		(3) 消灯後3週間 15℃、19℃	
		(4) 消灯後3週間目 10℃、13℃、15℃	
3 耕種概要 以降			
(1) さし芽時期 (試験 I) 昭和63年8月18日 (さし穂低温処理 0℃ 30日間)			
(試験 II) 平成 1年8月31日 (" ")			
(2) 定植時期 (試験 I) 昭和63年9月 1日 (試験 II) 平成1年9月14日			
(3) 電照期間 (試験 I) 昭和63年9月 1日 ~10月23日 (深夜4時間光中断)			
(試験 II) 平成1年8月31日~11月14日 (" ")			
III 主要成果の概要			
1 12月出し栽培			
(1) 12月出し無摘心栽培は、10月下旬に消灯した後に、無加温で栽培管理すると生育が遅れ、ロゼット株が多発しやすいので、最低夜温は15~17℃程度とする。			
(2) 消灯後の栽培夜温が17℃の高夜温の場合は、生育開花が促進され、揃いも良く切花品質が向上する。			
2 1月出し栽培			
(1) 1月出し無摘心栽培は、消灯時期が11月中下旬の低温期にあたるため、消灯前1週間、消灯後3週間及び消灯後3週間目以降の夜温をそれぞれ15~17℃、17~19℃及び13℃で管理すると開花揃いと切花品質が優れる。			
(2) 小花数は消灯後3週間で17~19℃の高夜温で栽培管理すると増加しやすい。また、消灯後3週間目以降は13℃で夜温管理すると花卉の伸長と形状が優れる。			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 12月出し栽培の消灯後の栽培夜温 (63年)

栽培夜温	消灯後の 開花日	平均 切花長 cm	葉数 枚	切花 重量 g	舌状 花率 %	ロゼット化 株率 %
無処理	12・29	90.4	47.8	83.5	83.0	32.5
15℃	12・20	93.5	48.0	83.0	90.1	2.0
17℃	12・18	88.0	46.0	82.8	93.8	0

第1表 1月出し栽培における消灯前後の栽培夜温

栽培夜温			平均切花長	葉数	小花 数	栽培夜温			平均切花長	葉数	小花 数	
I	II	III	開花日	cm	枚	I	II	III	開花日	cm	枚	
無	10℃	1・16	92.2	53.8	207		10℃	1・15	100.8	53.0	148	
処	15℃	13℃	1・11	95.8	51.4	205	15℃	13℃	1・11	102.8	56.2	204
理	15℃	1・8	92.2	51.2	210	17℃	15℃	1・8	95.2	52.2	201	
	10℃	1・10	87.6	50.0	215		10℃	1・9	97.2	53.6	208	
	19℃	13℃	1・7	87.8	52.2	215	19℃	13℃	1・7	98.4	53.3	218
	15℃	1・6	92.6	52.2	215		15℃	1・5	93.2	52.2	216	
	10℃	1・13	94.4	53.6	200							
	15℃	13℃	1・12	96.4	56.0	206						
15℃	15℃	1・9	94.4	53.2	210							
	10℃	1・10	96.2	53.2	221							
	19℃	13℃	1・8	94.2	53.8	210						
	15℃	1・5	96.4	53.8	200							

注) 栽培夜温 I : 消灯前1週間、II : 消灯後3週間
III : 消灯後3週間目以降

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 県内の電照ギクの無摘心栽培産地の夜温管理法として活用できる。
- 2 電照ギクの主要品種であ '秀芳の力' は高温伸長開花性品種であるため、12~1月出し栽培ではさし穂及びさし芽苗の低温処理は必ず行う。

VI 今後の研究上の問題点

2~3月出し無摘心栽培における夜温管理法の検討

VII 資料名

63~1年度 福岡県農業総合試験場園芸研究所 花き花木試験成績書